

会 議 録

- 1 会議名 令和5年度 第2回上越市スポーツ推進審議会
- 2 議題（公開・非公開の別）
第3次総合教育プランに基づく令和5年度のスポーツ施策の実施状況について
（公開）
- 3 開催日時 令和5年12月18日（月） 午後3時00分から午後4時15分まで
- 4 開催場所 上越市教育プラザ 大会議室
- 5 傍聴人の数 0人
- 6 非公開の理由 なし
- 7 出席した者 氏名（敬称略）
 - ・委員：土田了輔、高橋正弘、相澤顕、饒村泰世、春日清美、國弘泰昌、川澄陽子、
関川信之、飯塚正男
 - ・事務局：吉田課長、倉石副課長、板垣係長、柏村係長、学校教育課 曾根原指導
主事、堀首地域クラブ活動コーディネーター、佐久間指導員、濱口主事
- 8 あいさつ 上越市スポーツ推進審議会委員長 土田 了輔
- 9 報告事項
 - (1) 令和5年度 中学校部活動改革の進捗状況について
資料1-1に基づき事務局が説明
資料1-2に基づき事務局が説明
資料1-3に基づき事務局が説明
 - (2) 令和5年度 地域におけるスポーツ活動の環境整備の進捗状況について
資料2-1に基づき事務局が説明
資料2-2に基づき事務局が説明
- 10 議題
 - (1) 第3次総合教育プランに基づく令和5年度のスポーツ施策の実施状況について
資料3-1に基づき事務局が説明
資料3-2に基づき事務局が説明

【土田委員長】

地域クラブフェアには大勢が来場したとのことだが、来場者は何から情報を得たかアンケートしていないか。

【事務局】

来場の動機をアンケートでは確認していない。周知の面においては、第一回は、中学生全生徒に向けて開催を周知したが、第二回では、加えて、小学校4年生から中学校3年生までの生徒児童に対して、周知した。ほか、ホームページでも周知を行った。

【土田委員長】

かなり大勢が集まっているので、このような形で地域のスポーツクラブを知ってもらえることは良いと感じる。

【関川委員】

スポーツ活動の充実「2 総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業」の成果指標について、令和4年度の現状値11%のところ、10月末時点で12%であることは、人口減によりパーセンテージが上がったものと予想されるが、この指標12%は、全国や他市町村と比較するとどうか。

【事務局】

他市町村の現状は把握していないので、確認して説明したい。

【事務局】

確かに、パーセンテージは、人口減少の影響を受け、指標としては少しわかりづらいため、令和4年度末時点は、19,559人。令和5年10月末時点は、21,811人と補足する。

人口減少も要因の一つではあるが、新型コロナウイルス感染症が感染法上の5類に引き下げられ、市民のスポーツへの関心が高まったことなどで、実数は増えている。なお、地域クラブフェアでは、いくつかの参加クラブから会員確保に効果的であったとの声も聞いている。

今後は、指標とされているパーセンテージのほか、会員数も報告したい。

【土田委員長】

総合型地域スポーツクラブに所属する会員の年齢構成はおおよそ把握しているか。人口減少と同時に、少子高齢化も進んでいる。退職した人たちの中で、スポーツをする人が増えれば、パーセンテージも上がる。今、データがなければ、調べてほしい。パーセンテージが増える要因のひとつとして、あり得ると感じた。

【事務局】

今回データは間に合っていないので、次回提示したい。

【関川委員】

スポーツを安全に行うという観点では、学校体育館を安全に使える整備を進めてほしい。所管は違うと思うが、一番使用が容易な施設は学校の体育館と考えている。

【事務局】

現在は、小学校体育館を中心に開放している。部活動が学校からなくなっていくことを想定していく中では、使われなくなる中学校の体育館の開放に向けて検討を進めていく必要がある。地域スポーツクラブの利用に耐えうるものか。備品等がそろっているのか。安全な利用を前提とした中では、現状を把握し、不足するものについては当課での整備も検討していきたい。

また、どの競技が、どの学校の体育館を使用するのか、希望調査も進めていく必要もある。一つの体育館で全ての競技に対応するとすると、経費や安全の面で対応しきれない部分もある。人と地域スポーツクラブのマッチングだけではなく、施設についてもマッチングも図っていく必要がある。

【事務局】

スポーツ活動の充実に関して、運動習慣の実施率の向上と総合型地域スポーツクラブの会員数増加について補足したい。昨日、「アクティブ・チャイルド・プログラム」をテーマとして、総合型地域スポーツクラブ研修会を開催し、30人弱参加した。

部活動がなくなっていくことで子どもたちのスポーツ離れが加速すると予想される中で、“ゆる部活”を、本テーマから派生することができないかと感じた。中学校の部活動がなくなっていくことを踏まえながら、子どもたちに運動する機会を提供し、体を動かすことが好きな子どもたちを増やすために、「アクティブ・チャイルド・プログラム」の研修会を行った。

次年度からは、上越 SC ネットに市から委託をする中で、“ゆる部活”もしくは、レクリエーションとして取り組めるような活動を増やしていきたいと考えている。次年度以降、この場で詳細を伝えていきたい。

【土田委員長】

「アクティブ・チャイルド・プログラム」については、ある学会でも、中学校の体育授業の準備運動ですごく良いと紹介されていたので、学校の先生方からは興味を持ってほしい。

地域クラブフェアのような人が集まる機会は重要なので、“ゆる部活”も含めて、スポーツへの新しいアクセスの仕方がこれからは求められていくと思う。

【春日委員】

部活動がなくなっていくことで、ますます運動しない子どもたちが増える想定の中で、県レクリエーション協会では、遊びながら体を動かすチャレンジザゲームという種目を学校で指導すると話を聞いている。知らず知らずに体を動かす運動遊びも必要になってくると思うので、レクリエーション協会としても活躍の場が増えるのかなと考えている。

【國弘委員】

土日における部活動の見直しについては、令和 5 年度から令和 8 年度までのスケジュールが示されている。

何年度になれば中学校から地域へ移行完了するのか。スポーツ少年団としては、今後のスケジュールを踏まえて、指導者の育成を進めていく必要があるので、教えてほしい。

【事務局】

平日における部活動については、令和 8 年度までの間に合わせて検討していくことになっている。文部科学省では、早ければ令和 8 年には検証に入りたいと話しているが、文部科学省でも話が見えなくなってきた。中体連が今後どうなっていくのかについても、競技によっても感触が変わってきている。そうした中であって、全体のスケジュール自体が見えなくなってきた状況である。部活動がなくなる方針は変わっていないが、いつ平日部活動がなくなるかについては、国も具体的なスケジュールを示していない。

学校教育課が「他の自治体の動向を注視し…」と説明したとおり、今後のスケジュールはまだわからないが、部活動がなくなる話がなくなったわけではないとしか回答できない。国の動向、他の市町村の状況を見ながら決めていきたい。

【相澤委員】

今年度から、中体連の大会にクラブチームの参加が認められ、国から中体連にはできる限りクラブチームが出場できるようにしてほしいと動いてきた。1 月までの申請期間が始まっている。2 月下旬頃までには、来年の中体連の大会に参加できるクラブチームははっきりする見込み。今年度と大きな変化はなく、参加には様々な条件があり、まだそれほど多くのチームが参加できる環境にはなっていないが、できるだけ参加を認める方向で動いている。

また、令和 8 年度からは、教員が、土日の中体連以外の大会に引率することをなくす方向で考えている。平日の部活動を学校で行うことはわからないが、これに伴い、土日の中体連以外の大会に出場する場合は、クラブ名で出場することになる。今後、平日の活動が見直される中で、部活動は、体力向上とか、マナー向上とか、協力・団結とか、趣味を生かすとか、勝ち負けではないものに変わらざるを得ないと予想している。中体連以外の協会主催の大会については、土日開催が多いことから、学校単位での参加が難しくなるので、クラブチームが学校単位にない現状においては、それらの大会ができなくなるかもしれない。

平日における部活動のスケジュールの見通しはまだ厳しいが、土日の活動はそのように変わる予定である。

【高橋副委員長】

部活動の見直しについて、近隣の市町村で足並みがそろわない場合、上越は、全く部活動を行わないが、一方で、柏崎は前と変わらずに活動していることが仮にあれば、市民を不安にさせかねない。県で統一するというのは困難だとは思いますが、他の市町村とも意見交換しながら進めてほしい。

【事務局】

中郷のスキーは妙高、相撲は糸魚川と連携していく必要が出てくる。中郷区で言えば、合併前上越市との間には新井地区があるため、移動手段を考慮すると、連携する必要がある。まだ成果は出ていないが、三市の職員が、今後情報共有する連携会議を持つと話をしている。子どもたちの具体的な移動手段、ニーズに合った活動の場の提供に向けて、動き始めたところである。

【飯塚委員】

中体連に登録しようとする考えもあったが、現在の活動時間と条件が合わず断念した。今スクールで活動する子どもたちが全国大会に出場するためには、練習時間が必要である。練習時間の制限が市町村によって異なれば、地域格差となってしまう。

教員の働き方改革を進めるのは仕方がないが、それに子どもたちが巻き込まれ、不利益となってはならない。

【事務局】

地域クラブフェアでは、参加競技団体の一部から「中学校からのクラブへの参加では全国大会を目指すのは難しい」「全国大会を目指す子どもは、小学校低学年から競技を始めている」との意見があった。11月には、小学生も対象として案内した。小中学生が823人参加したとあるが、小学生がほとんどであったため、来場者は、小学生から始めるスポーツ等を探しに来ているものと推測している。地域で幼年期からスポーツに取り組める環境を整えることが重要と考える。

【相澤委員】

中体連の大会は、プロを目指す大会ではなく、子どもたちの健全育成が目的であり、勝ち負けを第一の目的としていない。その中で、クラブチームが参加する場合は、練習時間などが制限されている部活動ガイドラインを守ることを条件としている。

11 その他

12 問合せ先

教育委員会スポーツ推進課企画推進係

TEL : 025-545-9246 (内線 616-1330)

E-mail : sports-k@city.joetsu.lg.jp

13 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。